

ジャパン・リニューアブル・エナジー株式会社「（仮称）北海道八雲町風力発電事業計画段階環境配慮書」に対する意見について

平成29年7月28日
経 済 産 業 省
産 業 保 安 G
電 力 安 全 課

本日、環境影響評価法第3条の6の規定に基づき、「（仮称）北海道八雲町風力発電事業計画段階環境配慮書」について、ジャパン・リニューアブル・エナジー株式会社に対し、環境の保全の見地からの意見を述べた。

意見内容は別紙のとおり。

（参考）当該地点の概要

1. 計画概要

- ・ 場 所 : 北海道二海郡八雲町及び山越郡長万部町
- ・ 原動力の種類 : 風力（陸上）
- ・ 出 力 : 最大184,800kW

2. これまでの環境影響評価に係る手続

計画段階環境配慮書受理	平成29年 5月 9日
環境大臣意見受理	平成29年 6月30日
経済産業大臣意見	平成29年 7月28日

問合せ先：電力安全課 高須賀、岡田
電話03-3501-1742（直通）

ジャパン・リニューアブル・エナジー株式会社「（仮称）北海道八雲町
風力発電事業計画段階環境配慮書」に対する意見

1. 総論

（1）対象事業実施区域の設定

- ①対象事業実施区域の設定並びに風力発電設備及び取付道路等の附帯設備（以下「風力発電設備等」という。）の構造・配置又は位置・規模（以下「配置等」という。）の検討に当たっては、計画段階配慮事項に係る環境影響の重大性の程度を整理し、反映させること。
- ②対象事業実施区域の設定に当たっては、事業の円滑な実施の観点から、環境省が平成28年度より実施している「風力発電等に係るゾーニング導入可能性検討モデル事業」によりゾーニングを検討している八雲町との情報共有、意見交換等を積極的に実施し、得られた知見等を適切に事業計画に反映させること。

（2）環境保全措置の検討

環境保全措置の検討に当たっては、環境影響の回避・低減を優先的に検討し、代償措置を優先的に検討することがないようにすること。

2. 各論

（1）騒音等に係る環境影響

事業実施想定区域の周辺には複数の住居が存在しており、工事中及び供用時における騒音による生活環境への影響が懸念される。このため、風力発電設備等の配置等の検討に当たっては、「風力発電施設から発生する騒音等測定マニュアル」（平成29年5月環境省）及び最新の知見等に基づき、住居への影響について適切に調査、予測及び評価を行い、その結果を踏まえ、風力発電設備等を住居から離隔すること等により、騒音等による生活環境への影響を回避又は極力低減すること。

（2）風車の影に係る環境影響

事業実施想定区域の周辺には複数の住居が存在しており、供用時における風車の影による生活環境への影響が懸念される。このため、風力発電設備の配置等の検討に当たっては、住居への影響について適切に調査、予測及び評価を行い、その結果を踏まえ、風力発電設備を住居から離隔すること等により、風車の影による生活環境への影響を回避又は極力低減すること。

（3）鳥類に対する影響

事業実施想定区域及びその周辺では、オジロワシ、クマタカ等の希少猛禽類の生息及びノスリ等の渡り鳥の渡り経路が確認されていることから、本事業の実施により、風力発電設備への衝突事故、移動経路の阻害等による鳥類の生息及び渡りへの重大な影響が懸念される。このため、専門家等からの助言を踏まえた鳥類に関する適切な調査、予測及び評価を行い、その結果を踏まえ、風力発電設備等の配置等を検討すること。それでもなお、鳥類に対する影響を回避又は十分に低減できない場合は、風力発

電設備等の配置等の再検討、対象事業実施区域の見直し及び基数の削減を含む事業計画の見直しを行うこと。

(4) 植物及び生態系に対する影響

事業実施想定区域には、自然環境保全法（昭和47年法律第85号）に基づく自然環境保全基礎調査の第3回調査（植生調査）において自然度が高いとされた植生が存在しており、本事業の実施による植物及び生態系への影響が懸念される。このため、当該区域における風力発電設備等の配置等の検討に当たっては、現地調査により自然度の高い植生が存在する区域を明らかにした上で、既存道路、無立木地等を活用することにより、これらの重要な自然環境の改変を回避又は極力低減すること。

以上の検討の経緯及び内容について、方法書以降の図書に適切に記載すること。